

はじめてのたんじょうかい

しょうげん じ はる こ
生源寺美子

やまもと こ
絵・山本まつ子



新・創作えほんこ

はじめての たんじょうかい 生源寺美子・作

初版発行／1977年2月 第13刷発行／1980年11月

発行所／株式会社金の星社 111

東京都台東区小島1-4-3
電話／東京03-861-1861(代)
振替／東京0-64678

写植／松竹写植

製版／株式会社ユニプロセス製版社

印刷／熊谷印刷株式会社

製本／東京美術紙工

©Haruko Shogenji & Matuko Yamamoto 1977

913 生源寺美子

はじめての たんじょうかい

金の星社 1980

72P 22cm

基本カード記載例

8393-052031-1406 ■乱丁落丁本は、ご面倒ですが小社営業部宛御送付下さい。送料小社負担でお取替いたします。

はじめてのたんじょうかい

しょうげん じ はる こ
生源寺美子

やまもと こ
絵・山本まつ子



のぼると まさと

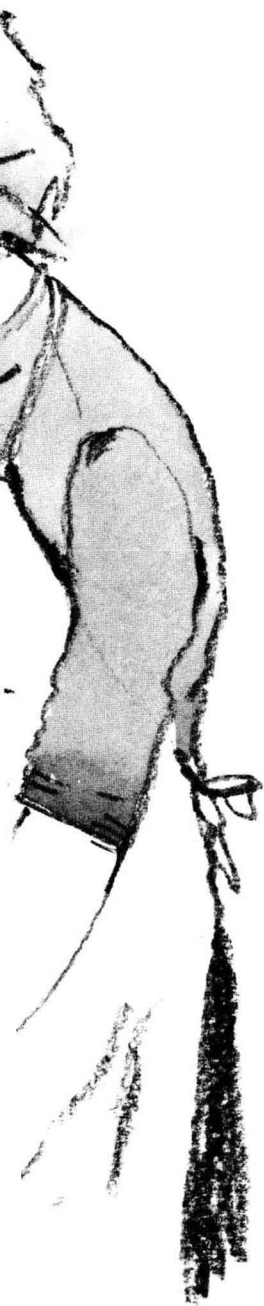
どうぶでした。

のぼるは、おかあさんの つくった
チヤ^ちーシ^やユ^しーメ^ゆンを たべていました。

「のぼるー。」

となりの あきちから、こえが します。

「あつ まさとだ。」





のぼるは、あわてて はしを おきました。

たべかけの メン^{めん}が あごに たれさがりました。

「ほらほら。」

おかあさんが いいました。 のぼるは

メンを、くちにおしこんで

たちあがりました。

「だめよつ、ちゃんと みんな たべてから

あそぶのよ。」

でももう、 のぼるは そとへ とびだしていました。

「おっそいなあ。」

まさとは、あきちに たって、はしってくる



のぼるに、かおを　しかめてみせました。

のぼるは、まだ　くちを　もぐもぐさせながら
こたえました。

「それでも、とちゅうで、たべるの　やめて
きたんだぞう。おかあさん　おこってたけど。」

「へええ、だから　のぼるはやせっぴいなんだよ。
きゅうしよくの　ときだって、いっつも
びりつかすだもんな。」

それを　いわれると、のぼるは　よわいんです。

「いいじゃないか、もう。それよか　はやく
やろうよ。」



「オッケー、じゃ、いくぜ。」

まさとは、もってきたボールを、ひゅーっと

なげました。 ちょうど のぼるの むねの

あたりに きた、あんだーすろー アンダースローの いい

たまだったのに、のぼるは うけそこないました。







ボールは、のぼるのてをぬけて、

かたわらのくさむらへころころころ。

「ちえっ、ナイスボールなのにさ。」

まさとはしたうちをしました。

こんどはのぼるが、ひろったボールを

まさとのほうへほうりました。

ところが、ボールはまさとのずっと

てまえまでしかとどきませんでした。まさとは、

すばやくまえへでて、うけとめようと

しましたが、さすがのまさにも

とれませんでした。



「ちえつ。」

まさとは また したうちを しました。まさとは
のぼるに はやく じょうずに なって
ほしいのです。

なにしろ、のぼると まさとは
ようちえんからの なかよしです。それに
一ねんせいになつて、おなじ くみに





はいったのは この ふたりだけだったのです。

だから、よけい なかが よいのです。

でも、もう 一ねんせいに なって、はんとし

たちました。やきゅうずきの まさとはは、やっぱり
やきゅうずきの ともだちが、五にんも できました。

この 五にんとで やると、やきゅうは うまく

いくのです。

キヤツチボールも きやつちぼーる ろくすつぽ できない

のぼるは、なかまに はいれません。

まさとは、はやく のぼるを、なかまに

いれたくて いっしょうけんめいなのでした。

たんじょうかいは きんようび

二、三日^{にち}してからの ことでした。

のぼるが がっこうに いくと、まさとを

かこんで、わいわい がやがや さわいでいます。

「へーえ、いいなあ、グロ^{ぐろー}ーブ^ぶかあ。」

もりくんが ってます。

「かってもらったら、かしてくれよな。」

よこかわくんが いいました。

「かわりばんこだぜ。」

ただくんが いいました。

